

【部会員の皆様へ重要なお知らせ】

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、当面の間、講習会等の開催を中止します。ご不便をおかけしますが、時期の栽培管理資料等は各特報の中に記載する予定です。尚、詳しくは担当技術員までお問合せください。

4月の低温等により全域で生育遅滞となり、一部の花に被害が散見されます。加えて、各種病害の感染拡大が心配されます。生育ステージを確認して適期に薬剤散布を実施してください。＊詳しくは各特報参照

- 生育2020：白鳳 開花 4/17 満開 4/22 ふじ 開花 4/25 満開 4/29 ＊平年比△3～5日程度
- 4月気象特記：最高 21.5℃ (4/4) 最低 -3.3℃ (4/7) 氷点下 15日 多雨 19.5mm (4/13)・31.5mm (4/18)
- 低温遭遇 (4/24現在)：-3.3℃ (4/7) -3.2℃ (4/11) -2.7℃ (4/15) -2.1℃ (4/17) -2.3℃ (4/23)

(参考)

品目名	平年	H29	H30	R1	R2
もも 白鳳開花	4/20	4/19	4/12	4/20	4/17
りんご ふじ開花	4/30	5/1	4/21	4/30	4/29
巨峰 発芽	4/28	4/28	4/21	4/28	4/27頃

～高温に関する注意報～

月末から連休中は平年を約3℃前後上回る最高気温が予想されています。高温障害等の農作物の管理にご注意ください。

もも せん孔細菌病 多発注意
～枝病斑切除を徹底的に～

① 春型枝病斑の発生状況 (4/22 調査)

発生程度・・・多発

発生時期・・・開花期～

発生部位・・・「枝の先端部」に多い

② 春型枝病斑の特徴 (早急に園内を見回り、必ず切除して下さい)



写真 (左：健全枝 右：春型枝病斑)

＊春型枝病斑は、表皮を削ると木質部が「アメ色」に変色しています。

春型枝病斑

病斑部表面は、黒紫色に変色している。
枝病斑の内80%は、先端部に発生。

切除位置

枝病斑ギリギリではなく、
健全な芽を3つ含めて切除する。



枝病斑の内80%は、枝の先端部に発生しています。特に、先端部の病斑切除を徹底し、菌密度低下に努めて下さい。

4/17 配布の果樹特報 No3 の裏面にりんご薬剤摘果講習会開催についてお知らせしましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止いたします。使用方法是次項を参考にしてください。不明な点は園芸課担当までお問合せください。

参考：ふじ薬剤摘果 2020 について *詳しくは担当技術員までお問い合わせください。

1. 使用薬剤

● マイクロデナポン水和剤 85

使用目的	対象果樹	使用薬剤	使用方法
摘果	りんご	マイクロデナポン水和剤 85 (NAC 85.0%)	使用倍率：1,200 倍 使用回数：2 回以内 (NAC2 回以内) 散布時期：満開後 1～4 週間後

*農薬の登録は、適宜更新されています。最新の登録情報を確認し、適正に使用してください。また、販売メーカーにより登録内容が異なる場合がありますので、購入時、使用時には農薬のラベルを必ず確認してください。

- 効果発現を高めるため、基本的には単剤で散布してください。
- 極端に着果量が不足している場合：薬剤摘果は行わないようにしてください。

水	100^{リットル}	500^{リットル}	600^{リットル}	1,000^{リットル}
アプローチ B I (333 倍)	300ml	1500ml	1800ml	3000ml
劇 [Ⓔ] マイクロデナポン水和剤 85 (1200 倍)	83g	415g	498g	830g

注意事項

① 展着剤：アプローチ BI に代えて、ニーズ 1000 倍でもよい ⇒ 使用量目安：500^{リットル}で 500ml・600^{リットル}で 600ml

② ミクロデナポン（水）は果皮、果柄や果台から発生した新梢（葉）から多く吸収される。よって、果実及び花そう葉に十分かかるように散布する。

③ 散布量が少ないと効果が落ちる場合があるので、多めに設定する。

④ 結実が悪い園、毎年生理落果の多い樹や園、極端に樹勢が弱い樹、強い樹は散布しない。

⑤ **【重要】マイクロデナポン水和剤は劇物登録薬剤です。購入の際は印鑑をお持ちください。**

2. 散布時期

- ① 目安：満開 2 週間後 ⇒ 5/15～20 頃
- ② 中心果の横径が 10～12mm 程度 ⇒ 測定位置：目通りの高さ
- ③ ふじは生理落果の少ない品種なので最も落果の多くなるタイミングで散布する。
- ④ この時期の果実は 0.5～0.7mm 程度 1 日肥大する。（10 日間で約 5 mm～7mm 伸びる）

3. ふじ以外の品種の使用方法

- ① つがる・秋映は過剰落果の可能性があるので、薬剤摘果は行わない。混植してある場合は、極力飛散しないように注意する。
- ② シナノスイート・シナノゴールドの成木に使用する場合は、ふじで使用するのと同様、果実及び果そう葉によく付着するように散布する。
- ③ 地帯によっては、品種間で満開日の差があるので、各園の状況をよく考慮して散布を計画する。

4. 薬剤摘果実施後の対応

- ① 散布後 1～2 週間で落果するものと残るものの区別がつくようになるので、散布 2 週間後頃から摘果作業に入る。
- ② 効果の発現は、側果への養分転流が停止するため、軸部が黄化する。その後、自然落果するので、摘果の必要はない。
- ③ 散布 2 週間後になっても、効果が発現しない場合は、状況を確認しながら早めに予備摘果作業を進める。